

京都教区時報

カトリック京都司教区
広報委員会

京都市中京区
河原町通三条上る

TEL 075-211-3025

FAX 075-211-3041

honbu@kyoto.catholic.jp

<https://www.kyoto-catholic.net/>

2026年 司教年頭書簡を受けて



©Vatican Media

第7回 若者―教会の未来を担う旅人たち

大塚司教の年頭書簡第7項のメッセージは、現代の京都教区に大きな希望を与えるものです。教会は今こそ若者を温かく迎え入れ、彼らが自らを教会と信仰の未来を担う大切な存在として受け止められるよう、共に歩み支えていくことが求められています。

現在、日本の多くの小教区では若者の姿を見かける機会が少ないという厳しい現実があります。しかし、それは決して悲観したり諦めたりする理由にはなりません。むしろ、この現状こそが私たちに若者のもとへと向かわせ、愛をもって寄り添うよう促す呼びかけなのではないでしょうか。

何より大切なのは、教会と若者との間に信頼に基づく良い関係を築くことです。教会が若者にとって安心して集い、成長できる場となるよう門戸を開く一方で、若者自身も心を開き、教会の活動や奉仕に主体的に関わっていくことが期待されます。

イエス・キリストの愛は、本来すべての若者の心の内に宿っています。ただ、それがまだ十分に表れていないだけなのかもしれません。教会の役

割は、一人ひとりに寄り添い、その内に秘められた賜物や力を引き出す手助けをすることにあります。

現代のデジタル社会では、テクノロジーは若者にとって欠かせない存在となつていきます。だからこそ、教会はそれ

を否定するのではなく、若者ならではの創造力を生かすことによって、デジタル空間を神の愛と福音を伝える新しい宣教の場として活用することができるでしょう。

たとえ今、若い世代にとって教会への道が遠く感じられ、その橋が十分に渡りやすいものではないとしても、教会がより確かな支えとなることで、若者たちは再び喜びをもってその橋を渡り、霊的な故郷へ帰ってくるができます。その日を信じ、私たちは若者と共に歩み続け、支え合っていきたいと思っています。

京都北部ブロック協力司祭 レデンプトル会
ペトルスファベルパティマンゴエ（アベ）

大塚喜直司教年頭書簡

「教皇レオ十四世 希望と一致の橋をかける牧者」



8
2026



青年センター 春プロジェクト
西院教会にて

京都教区の共同宣教司牧 「第2段階」に向けて

パウロ大塚喜直司牧は、2026年5月27日付で、文書「京都教区の共同宣教司牧(2001年―2026年)『第2段階』に向けて―『共同宣教司牧』から『シノドスの教会』への歩み―」(Syn. Prot. N.56/2026)を発表しました。

四半世紀の歴史 共同宣教司牧

京都教区は、1990年代以降、段階的に「共同宣教司牧」を導入し、2001年の年頭書簡『これからの京都教区の将来を考えて―共同宣教司牧が目指していること―』によって、その方向性を教区全体に示しました。それ以来25年にわたり、司祭・修道者・信徒が、それぞれの召命に応じて、共に福音宣教の使命を担う教会を目指して歩んできました。



共に使命を担う共同宣教司牧

今回の文書では、この25年の歩みを振り返り、共同宣教司牧が単なる司祭不足への対応ではなかったことが確認されています。司祭数の減少という現実を契機としながらも、それは教会を維持するための応急措置ではなく、教会のあり方そのものを問い直し、宣教する教会として歩み直すための先見的な選択でした。そこには、「司祭が担い、信徒が支える教会」から、「司祭・修道者・信徒が共に使命を担う教会」への転換がありました。

また、共同宣教司牧の本質は、単なる活動の共有ではなく、識別の共有にあることも強調されています。合同ミサや合同の活動は大切な表現ですが、それ自体が目的ではありません。目指されてきたのは、司祭・修道者・信徒が共に祈り、みことばに聴き、聖霊の導きのもとで、教会として進むべき道を共に識別し、その責任を分かち合うことでした。この理解は、今日、教会全体で深められている「シノドスの教会」の歩みとも深く響き合っています。

共同宣教司牧 第2段階へ

文書は、今後の歩みを「第2段階」と位置づけています。第2段階とは、新しい制度をさらに増やすことなく、共同宣教司牧の本質を、教会の文化と霊性として日常の教会生活に根づかせていくことです。

そのためには、各ブロックや小教区において、行事や会議を単に前年どおりに続けるのではなく、「何のために行うのか」「誰のために行うのか」という宣教の目的と方向性を共有することが求められます。特に、ブロック会議や小教区評議会は、単なる運営・報告・調整の場にとどまらず、現実を共に見つめ、祈りのうちに聖霊の導きを識別する場として深められる必要があります。

また、担い手の養成、すべての世代が居続けられる教会づくり、外国籍信徒と共に教会を形づくる歩みも、今後の重要な方向として示しています。

京都司教 パウロ 大塚喜直

全文は、京都教区ホームページに掲載しています。英語版、ポルトガル語版もあります。左記、二次元コードからお読みいただけます。 広報委員会



日本語



英語



ポルトガル語



典礼聖歌研修会

第1回



5月30日(土)、西陣教会において教区典礼委員会の主催で、典礼聖歌研修会を開催しました。講師にはイエスのカリタス修道女会のシスター峯妙子さんをお迎えし、85名の参加者とともに充実した学びの時を持つことができました。

シスター峯は、修道会の聖歌隊「スモークワイア」の指揮・指導に携わっておられ、また典礼聖歌の主要な作曲者である故高田三郎先生から直接指導を受けてこられた方です。

ラテン語から日本語の典礼へ

第2バチカン公会議の改革の中で最初に取り組まれたものの一つが典礼刷新でした。それまでラテン語で行われていた典礼を、それぞれの国の言葉で祈り、歌うことができるようになりました。その際、教会の伝統であるグレゴリオ聖歌の精神を大切にしながら、日本語による典礼聖歌の確立に尽力されたのが高田三郎先生でした。

研修会の中でシスター峯は、高田先生の次の言葉を紹介されました。「ミサで歌うとき、わざとでなければ変な声で歌ってもよい。わざとでなければ音程や

リズムを間違えてもよい。わざとでなければ言葉を間違えてもよい。しかし、心から歌っていないなら零点なのだ」。

そして、「心から歌うこと」の大切さについて語られました。その後、答唱詩編の歌い方を中心に、三位一体の主日とキリストの聖体の祭日の聖歌について実践的な研修が行われました。

典礼聖歌は生きた神のことば

第2バチカン公会議後、私たちは半世紀近くにわたり典礼聖歌を歌い続けてきました。しかし、日本語で歌うことに慣れた結果、知らず知らずのうちに音符を追うだけになってしまふ危険もあります。典礼聖歌の多くは聖書の言葉に基づいて作られています。その言葉に旋律が与えられることで、聖書の言葉は生きた「神のことば」として私たちの心に響き、より深く味わうことができるようになります。

今回の研修会では、多くの参加者が典礼聖歌を通して



て神のことばが自分に語りかけてくる体験をされたのではないでしょう。

私自身も神学生時代に高田先生の指導を受けた際、典礼聖歌が単なる歌ではなく、生きた神のことばとして迫ってくる体験を幾度もしました。今回の研修会では、シスター峯が「どのような心で歌うか」を具体的に示してください、典礼聖歌を通して神のことばを味わう喜びをあらためて学ぶことができました。

もちろん、正しい音程やリズムは大切です。しかし、それ以上に大切なのは、歌が私たちの心からの祈りとなることです。典礼聖歌は演奏会やコンサートのためではなく、共同体の祈りを神にささげるためにあります。また、ミサは司祭だけが行うものではなく、会衆とともにささげる祈りであることも、あらためて実感させられました。

次回の研修会にご参加を

次回の典礼聖歌研修会は10月31日(土)に、西陣教会にて開催いたします。答唱詩編の歌い方に加え、待降節・降誕節の聖歌を中心に研修が行われる予定です。聖歌隊で奉仕されている方々はもちろん、オルガニストや指揮者の皆さま、そして関心のある方はどなたでもご参加いただき、典礼聖歌の豊かな世界に触れていただければと思います。

典礼聖歌研修会企画担当 北村善朗

お知らせ

司 教

大塚司教の予定

最新の情報は京都司教区のホームページにてご確認ください。



教 区

正義と平和協議会 第19回戦争と平和写真展
「沖縄・フクシマ・戦争の爪痕」

日 時：8月8日④ 14:00～20:00

9日⑤ 8:00～16:00

場 所：河原町教会ヴィリオンホール

内 容：沖縄の写真、ヒロシマの高校生の聞き取りの原爆の絵、フクシマDVD
「コンセントの向こう側」上映8日
15:00、9日 13:00 約1時間

問合せ：正義と平和協議会 075-223-3340
seiheiky@kyoto.catholic.jp

■教区時報10月号の原稿締切日は8月23日⑤



皆さまのまわりに点訳版「京都教区時報」が必要な方がおられないでしょうか。点訳版「京都教区時報」をご希望の方がおられましたら、「点訳ネット・レジナ」笠松幸彦さんまでお申込みください。無料でお送りします。Tel・Fax/072-722-0271

諸 団 体

都の南蛮寺献堂450周年記念ミサと講演会

日時：8月23日⑤ 14:30～16:45

会場：河原町教会地下 都の聖母小聖堂および
ヴィリオンホール

①ミサ 司式：ホルヘ・モンテロ神父

(京丹ブロック担当司祭)

②講演会「献堂450年・都の南蛮寺をめぐる美術」

講師 岡 泰正氏 (神戸市立小磯記念美術館
神戸ゆかりの美術館 顧問)

※分かち合い 16:45～17:15 交流会18:00

事前のお申し込み要

申込・問合せ：京都キリシタン研究会

古澤吉次 090-2381-4630

京都カトリック混声合唱団

8月2日⑤ 14:00 聖歌練習

8月22日④ 17:30 練習後ミサ奉仕

場 所：河原町教会聖堂 団員募集中

問合せ：則武 隆 075-951-4283

心のともしび

ラジオ番組案内 (全国34局で放送)

8月主テーマ「豊かさ」

KBS京都 ⑤～⑥ 朝5:55

④ 朝5:15

ラジオ関西 ⑤～⑥ 朝5:00

④ 朝6:05

毎日放送 ⑤～⑥ 朝5:45

④ 朝4:55



☆春プロジェクト報告☆

5月23日(土)・24日(日)、西院教会にて「春プロジェクト」を開催し、11名の参加者が集まりました。

最初のレクリエーションでは、「人生すごろく」を通して互いの歩みを分かち合い、新たな一面を知る温かな時間となりました。また、食事や交流の時間を共にして、新たなつながりを育みました。そして、忙しい日常の中でも変わらずにいてくださるイエス様を見つめ直し、「これからどのようにイエス様とつながって歩いていくか」をテーマに、分かち合いや神父様の講話を通して、イエス様との繋がりを深めました。

2日目には心に残った聖書の言葉を、キーホルダーにして持ち帰りました。交わりの中にイエス様が共にいてくださることを改めて感じる、実りある2日間となりました。

最後に、西院教会の皆様をはじめ、開催を支えてくださったすべての皆様に心より感謝申し上げます。伏見教会 寺田英樹

